



南極観測隊経験者に インタビュー



4 次越冬

むらいし ゆきひこ
村石幸彦さん

公益財団法人日本極地研究振興会

(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

地磁気観測

- ・地磁気の絶対観測・地磁気連続観測（データ取り、記録紙交換、修理）
- ・地電流観測ちでんりゅう・観測小屋の保守（建設、修理）・他の観測隊員の手助け

設営兼務

- ・備品日用品の管理・調査旅行の準備・依頼品、無線機の準備
- ・六分儀による天測ろくぶんぎ・無線機による基地との連絡・便所掃除（排泄物の片付）
- ・飲用水のための雪や氷集め（近くの氷山へ行く）・降雪後の雪かき（当時は重機がなくすべてスコップによる作業）隊員全員の当番制



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

私が参加した第四次隊の時は宗谷が接岸できなかったため、輸送は全て2機のヘリコプターで行ないました。ヘリの上空から眺めた南極の素晴らしい風景に心を奪われて感激したのもつかの間、土木工事の現場以上にすさまじい昭和基地に舞い降りました。以後は30分位おきに休む間もなく荷物を満載して飛来するヘリのピストン輸送、荷卸し中もエンジンは切らないので舞い上がる砂塵さじん、砂漠よりも乾燥した気候で目は充血、唇は腫れてひび割れを起し、荷役作業に疲労困憊ひろうこんばいし、きつい日々を送らざるを得ませんでした。でもすべての物資を運び終え、宗谷が氷海のかなたへ去った後、嘘のような静けさに包まれた時になって、ああ地の果てに居るのだなという実感がこみ上げて来ました。



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

- ・夜毎よごとに仰ぐオーロラ。海に浮く巨大な氷山。果てしなく続く大陸の氷原等自然の美しさ。
- ・一人スキーを履き、気に入ったカラフト犬ひに曳かせて海氷上を遠出したこと。
- ・一番辛く悲しかったこと。福島隊員行方不明。それに続く捜索。吉田隊員とのビバーク。そして帰国までに発見できなかったこと。
- ・子供たちに向けて。目標を定め、努力すれば必ず叶う。